



住民反対 マンション予定地

中華街に「媽祖廟」建立

業者、きょう地元売却

横浜市中区山下町の横浜中華街に、新たな文化施設「媽祖廟」が建設される。中国に伝わる海の神様をまつり、既にある「閩帝廟」と並ぶ名所にしたい考え。予定地には、東京都内の大手不動産業者が高層マンション建設を計画していたが、中華街の住民らが「街の景観を壊す」と猛反発。業者側もこの意向を尊重し、中華街側が土地を買い取ることで決着。二十四日に契約を交わす。(石川 智規)

媽祖廟建設予定地は、「シルクロード沿い。中華 浜媽祖廟」を設立し、約九百八十四平方メートルの土地に、二階建ての本廟を建設する。

基礎部分は市内の設計業者が発注し、竜や木彫り装飾などは台湾の業者に特注する。総工費は約五億円の見込み。

基礎部分は市内の設計業者が発注し、竜や木彫り装飾などは台湾の業者に特注する。総工費は約五億円の見込み。

基礎部分は市内の設計業者が発注し、竜や木彫り装飾などは台湾の業者に特注する。総工費は約五億円の見込み。

基礎部分は市内の設計業者が発注し、竜や木彫り装飾などは台湾の業者に特注する。総工費は約五億円の見込み。

土地を所有する大手不動産業者は、ここに高さ三千メートル、地上十一階建て八十八戸のマンション建設を予定していた。昨年十一月に地元説明会を開催、直後に着工する計画だった。

しかし、建設の説明を受けた中華街側は、「これまで周辺のマンション

建設に反対したことはないが、中華街の真ん中に建てられては人の流れが急変する」と反対。

中華街発展会協同組合の林兼正理事長も「中華街を衰退させる種をまくのか。良識を見せてほしい」と交渉を重ねていった。

こうした意向を受けた

業者側は、「中華街にとって、風水的にも重要な場所だと聞いた。地域の発展に貢献するのも社の方針の一つ」と、土地の売却を決定した。売却額は約十億円。

中華街側は今後、全国から募金を集め、土地取得費や廟建設費を賄う方針。